

## 保護者の皆様からのご質問、ご意見がありました。

電話での聞き取りや、課題引き取りの時にいくつかのご質問がありました。

Q 入学式はありますか？服装はどうしたらいいですか？

A 6月1日の午後に予定（HP掲載済です）しています。校庭での開催になります。制服は夏服で構いません。約20分の式になります。熱さ対策も考えます。

Q 水泳の授業はあるのですか？水着は購入した方がいいですか？

A 残念ながら、今年度は、6月30日まで実施することが定められている健康診断が実施できないため、実施できません。水着の購入はご家庭で判断してください。ただ、中学生のこの時期です。休校中にも「背が10cmも伸びた」「久しぶりに制服を着てみたら小さくなってた」人もいます。購入の参考にしてください。

Q もし、コロナウイルス感染の第2波がやって来たら、どうなるのでしょうか。双方向でのオンライン授業などはできませんか？

A 今後のことは、まだ予測不能で、正直、どうなるのかわかりません。何があっても「命を守る」こと、そして「学びをとめない」ことを優先して、和田中学校の学校教育を進めていきます。今現在、Manabizでの一方的な配信しかできていません、申し訳ありません。

Q 3年生の娘がいます。進路選択に向けて、不安です。

A 中学3年生にとっては、「こうしよう」「こうなるだろう」と予想し、自分で計画してきたことが出さなくなりました。進路選択に向けても、入試そのものがどうなるのか、その方向性も定まっていなことから、不安が大きいと思います。今後、進路選択等の予定が決まり次第、すぐにお伝えします。今は、生活リズム、そして学習のリズムを崩さずに、学校再開に向けて備えることが大切です。ご家庭でのご協力をよろしくお願いします。

※課題配布時、また電話口で『先生方、大変ですよ。頑張ってください。』『動画、見えますよ。』等々、お声をかけていただいています。本当にありがとうございます。励ましのお手紙もいただくなど、保護者の皆様のご理解ご協力を支えに、日々開校に備えております。何かありましたら、遠慮なくご連絡ください。よろしく願いいたします。

### 《残念ながら中止となってしまったこと》

- 離任式
  - フレンドシップスクール（1年生）
  - 春・夏の体育大会（部活動）
  - 夏の水泳指導
  - 音楽鑑賞教室（2年生）
  - 理科教室（2年生）
  - 職場体験学習（2年生）
  - 海外中学生派遣事業
  - 英語検定・漢字検定・数学検定（本校での実施）
- ### 《延期で実施予定のこと》
- 運動会（秋 10月開催予定）
  - 学芸発表会（春 3月開催予定）
  - 70周年記念式典（2021年秋 開催予定）

学校、学年行事、またクラスでの取組などで、例年と同じようなことは、難しいです。形を変えて「深い学び」につながるように、様々なことを企画していきたいと考えています。

離任式が中止になり「お世話になった先生にお礼したかった」と、お手紙を届けてくれた人もいました。確実に届けます。学校去られた先生方からも「最後にきちんと挨拶もできず残念です。」等々お話を伺っています。皆さん、新しい学校で頑張られています。

延期して実施予定の運動会は10月の後半の土曜日、学年種目を中心として実施を予定しています。また学芸発表会は、例年ですと杉並公会堂で開催していました。今年度は学校、体育館での開催となります。時期は3月を予定しています。

70周年記念式典は、地域の方にご参加いただけるように、来年度の実施を予定しています。節目である今年も、70周年にちなんだ取組を行う予定です。



# 自立貢献

第5号

発行日 2020 05 22

杉並区立和田中学校

## 繰り返される歴史を踏まえた今後に向けて

校長 田口 克敏

私の手元に大正7年(1918年)11月5日付の「大阪朝日新聞」の縮刷版があります。「1918年11月5日」と言えば、4年に渡った第一次世界大戦の終結ほぼ1週間前です。この新聞の中に「大阪 全市の小學閉鎖 流行性感冒益猛烈を極む」という見出しがあります。これは後に「スペインかぜ」と呼ばれるインフルエンザウイルスによる「パンデミック」の一部であり、この感染症は1918～1920年頃までに推定での感染者数5億人、死者数1700～5000万人を数える事態をもたらしました。先ほどの「大阪朝日新聞」の記事は、流行の「第二波」の頃のもので、記事の中には、ある郵便局で郵便配達職員が流行性感冒により不足したため、局長が近隣の高等小学校（現在の中学生相当）の児童を「郵便配達及び電報事務の応援」として要請し実際に従事させた、といったものがあります。今では考えられませんが、それほど深刻な状況であったことが記事から伝わってきます。

「国立感染症研究所」によれば、「スペインかぜ」や戦後に流行した「アジアインフルエンザ」などでは「第二波」の方が「重篤性」が高くなっていったということです。特にワクチン開発ができていなかった「スペインかぜ」の当時の対策では「患者の隔離、接触者の行動制限、個人衛生、消毒と集会の延期といったありきたりの方法に頼るしかありませんでした。多くの人は人が集まる場所では、自発的にあるいは法律によりマスクを着用し、一部の国では、公共の場所で咳やくしゃみをした人は罰金刑になったり投獄されたりしましたし、学校を含む公共施設はしばしば閉鎖され、集会は禁止されました。患者隔離と接触者の行動制限は広く適用されました。（国立感染症研究所「インフルエンザ・パンデミックに関するQ&A）」というような状況で、現在の「新型コロナウイルス感染症」対策に非常に似ています。

人類はその長い歴史の中で多くの被害を受けながらも「感染症」と闘いながらそれを克服してきました。いま私たちはそうした歴史の一場面に直面しています。私たち一人一人の考え方や行動が社会の在り様を大きく変える事態が始まっているとも思います。

学校で言えば、長期にわたる臨時休業により、生徒の学びに対して何を提供し何が提供できないのかが鮮明になりました。学びにおける家庭と学校の役割では、何を依存し何が自立できていたのかも見えてきました。ICT活用の効用と限界も分かり始めてきています。生徒個々でいえば、チャイムも鳴らず先生もいない状況下で、学校も塾もほぼその機能を果たせない中でどのようにモチベーションを維持しながら学びを積み重ねていくのか、本当の意味での「自ら学ぶ」「自立した学習」の真価が問われる機会となっています。

今回の事態を通してインターネットを介すれば可能な学びが数多くあることが分かり、何も学校にわざわざ通わなくても済むのではないか、という声も聞こえてきます。旧来型の「知識・理解」だけを求める学習は、タブレットなどを使った反復学習の方がより効果的な面もあるでしょう。しかし、前回の「自立貢献 特集号」でお示した通り、学校に来てこそその価値を本校の生徒たちは連休前の「往復はがき」の返信の中で示しています。いかにAI全盛、インターネット浸透などの時代になっても、人間が人間としてある以上、物理的に共に同じ時間を同じ場所で過ごしながらかわり創り上げることを通してしか得られないものを提供できる場が「学校」ではないか、そのようなことを彼らの返信から感じています。

間もなく臨時休業は終了すると思います。生徒の声が響く「学校」が取り戻せるのも近いでしょう。この臨時休業期間の中で和田中学校の教職員も変わりました。学校のホームページを見ていただければそれはご理解いただけると思います。今回の事態は、「学校」が「学校」として果たすべき機能は何か、それを突きつけてくれたように思います。その問いに対する答えを試行錯誤しながら出していくのが「再開後」の「学校」の役割と考えています。

厳しい状況が続きますが、引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

### 学校再開に向けて



八明 弘江先生  
藤井 高先生 小倉 結芽乃先生 松下 剛先生 櫻井 拓哉先生

### 2学年の先生より

学校が再開すると、学習に部活に、習い事など1日があっという間に過ぎていく忙しい日々が戻ります。家庭でも学校生活を送っているような時間の使い方を意識してください。今までの起床・就寝時間に戻す。8時20分から10分間読書、8時45分から50分間課題の取り組み、10分間休憩…。ここまでするのは大変だと思いますが、テレビやスマホなどの画面を見る時間、体を横にする時間を減らし、文字を見て考える時間、椅子に座る時間(姿勢を縦にする)を増やしていきましょう。元気な皆さんとの学校生活を楽しみにしています。

### 1学年の先生より

今まで経験したことのない休校が続いています。教室や下駄箱の準備をしたり、どんな学年にしようかと思いを巡らせてみたりしながらも、皆さんとの生活がスタートするのはもう少し先。しかし、その日は確実にやってきます。この一年間という期間で考えれば、みんなで過ごす大事な時間は少し短くなってしまっていますが、一生忘れることのない内容の濃い中学校生活になるはずですよ。できないことやなくなってしまったことを数えるだけだと、気持ちは落ち込んでしまいます。できることをどれだけ素晴らしく実現するか、そこに気持ちを集中させていきましょう。まずは、入学式に向けて体調を整え、休むことなく登校する準備をしてください。皆さん全員と出会い、第一学年をスタートするのを、楽しみにしています。



岡本 希先生 北山 淳子先生 大関 美香先生  
金井 美代子先生 阿部 圭祐先生 岡本 匡史先生

### 3学年の先生より

和田中学校の皆さん、元気ですか。朝はしっかりと起きてご飯を食べていますか。体は動かしていますか。勉強していますか。先が見えずに不安やストレスが溜まっていますか。電話でも話をさせてもらいましたが、まだまだ聞きたいことがたくさんあります。学校が再開したときに一番大切なのは「学校に来ること」です。簡単そうに思えて難しい。その時のために、今は自分のできること、しなければいけないことをしっかりと続けていきましょう。未来に向けて、自分のしたいことを考えてみましょう。先生たちは皆さんの顔を見て、勉強や部活、学校生活を送れる日が来るのを楽しみに待っています。



真岩 裕子先生 阿部 秀行先生 遠藤 淳子先生  
押野 直人先生 黒澤 直兄先生

### 早く生徒の皆さんにお会いしたいです！

#### 事務室・用務主事室の皆さんです

(後左から)横田智恵子さん(事務) 鈴木良一さん(用務) 吉岡和代さん(用務) 平塚浩子さん(用務) 金澤千絵さん(栄養士) 庄美也子さん(事務) もうお一人、事務の坂本理恵さんも生徒の皆さんを応援しています。

学校に電話をすると、ほとんどの場合、事務室の皆さんがまず電話に出られます。電話越しに、生徒の皆さんのことをよく知っていて、一人ひとりを気にしてくださっています。また、教室や校庭、色々な施設の面から支えてくださっている主事室の皆さんです。「休校中だから出かけることを」と校舎内外の整備に努めてくださっています。給食の準備も着々と始まっています。

学校再開時には、元氣な挨拶で皆さんを安心させてください。



#### 学校生活を授業や学習など支えてくださっている皆さんです。

(左から)東谷知佐子さん(SC ころろルーム:電話相談も担当) 田中美智子さん(学校司書) 高原秀次先生(学習支援員) 加藤琴乃先生(学びの教室専門員) 何かあったらいつでも声をかけてください。待っています！

この春から赴任されたスクールカウンセラーの東谷さんは、週一日、金曜日の勤務になります。もし、ちょっと相談してみたいこと、不安に思うこと、先生には言いにくいけど、誰かに話してみたいこと、何でも相談、OKです。休校中は「学校電話相談」を行っています。

高原先生、加藤先生、司書の田中さんは、昨年に引き続きお世話になります。生徒の皆さんとの再会を心待ちにされています。



先生 私達はもう引退ですよね

「『先生、夏の大会も中止だったら、もう私達は、引退ですよね』と言われてしまいました。本当だったら、一緒に色々やりたかったのに…」

電話連絡を終えて、職員室で肩を落とす先生がいまいた。3年生の皆さんにとって、全ての行事に「中学校最後の」という冠がついてくる大切な一年の、それも始まりの2ヶ月が休校になってしまった、その重大さを、目を追うことにひしひしと感じています。先生方も、「この行事ではこう頑張らせたい」「この子のごことを伸ばせる機会にしたい」等の思いから企画したり、準備したりしていたことが、何回となく「出きない」となり、心が折れそうになっています。そのような状況で、ゴールが見えない、このウィルスとの戦いの中で、どうしても失われてしまったものへの思いが傾くこともあります。でも、もう過去はかえられませんが、今、出ることに向けて、これからの未来に向けて、一歩ずつ一緒に進んでいくことが大切です。「ザンカ/SEKAI NO OWARI」J-POP 歌 2 次 の様な歌詞があります。

「夢を追う君へ」

思い出して くじけそうなら

いつだって物語の主人公が

立ち上がる限り 物語は続くんだ」

人生の主人公は、私達自身です。一緒に立ち上がって進み続けましょう。

「不安なことはない?と聞いたら『最近、地震が多くて不安です』って、男子がいました。」という報告もありました。「コロナ、地震…まだまだ私達の力の及ばない不安はたくさんありますが、頑張りましょう。」  
副校長 平沢 富美江